

第5次朝霞市総合計画 総括評価結果報告書【概要版】

I 総括評価の目的と対象

- (1) 総括評価の目的
- この総括評価は、第6次総合計画の策定にあたり、本市が第5次総合計画のもとで推進してきた施策等の成果と課題の整理等を実施することにより、計画策定の基礎資料とすることを目的としている。
- (2) 総括評価の対象となる計画と期間
- 今年度（令和6年度）は第5次総合計画の9年目にあたり、計画期間を満了していないことから、平成28年度（2016年度）から令和5年度（2023年度）の8年間を総括評価の対象期間とする。

II 第5次総合計画前期基本計画の総括評価

○第5次総合計画前期基本計画の政策分野ごとに、施策（大柱）の評価概要、市民意識調査から見た施策の重要度・満足度、分野における総括と課題を次のとおり整理する。

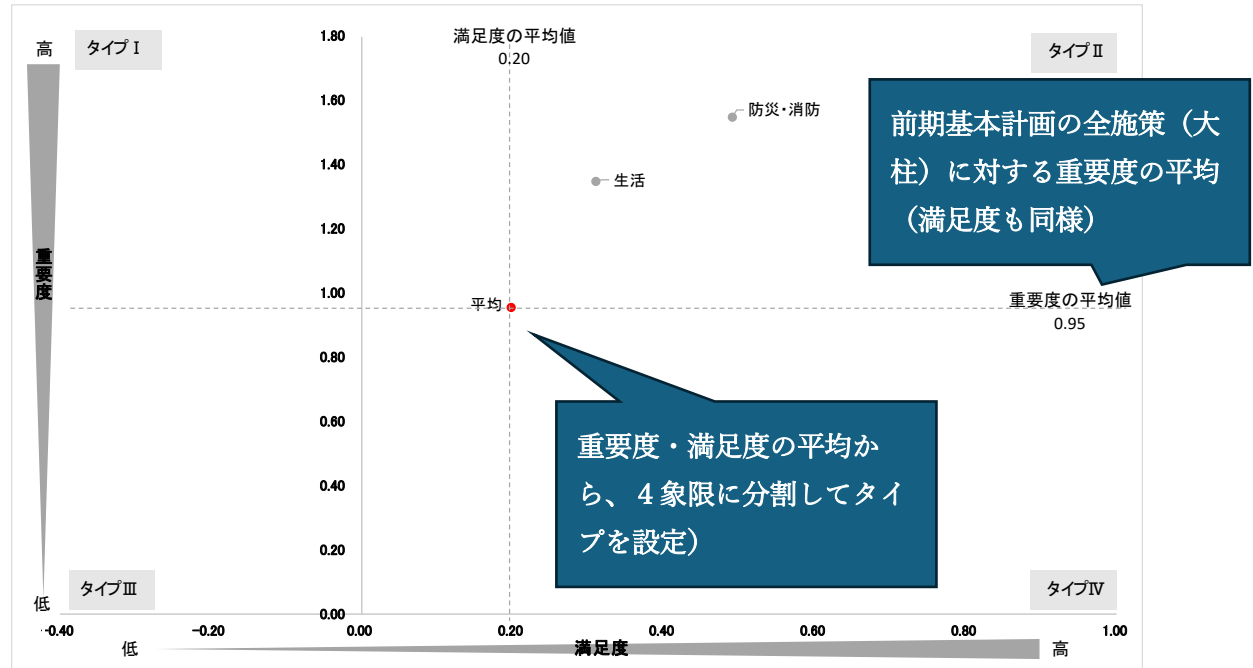
1 災害対策・防犯・市民生活

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）	総合判定
1-1 防災・消防	C／計画どおりの進捗
1-2 生活	C／計画どおりの進捗

【令和元年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ 防災・消防、生活とも、「C／計画どおりの進捗」となっている。また、市民意識調査から見た施策の重要度・満足度については、今後の重要度が高いが現在の満足度も高い。以上から、これまでの取組を継続的に展開すべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは「防災に十分はない」という指摘があり、引き続き、情報発信や災害時の高齢者・障害のある人等の支援体制充実などが求められている。また、犯罪から子ども等を守ることが求められている。

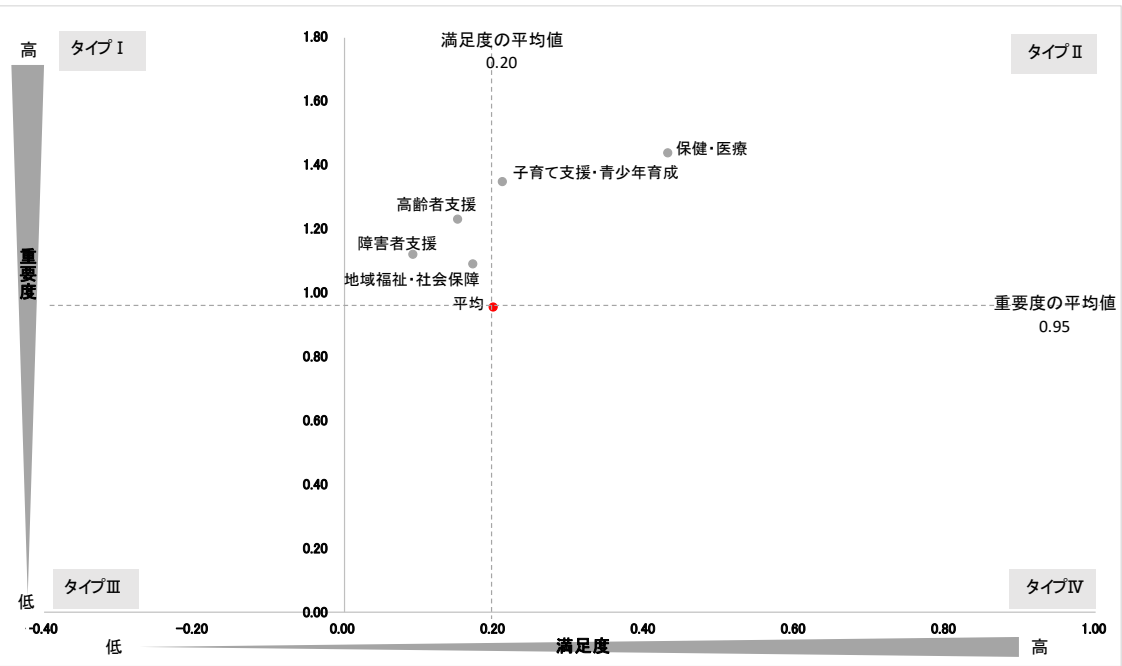
2 健康・福祉

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）	総合判定
2-1 子育て支援・青少年育成	C／計画どおりの進捗
2-2 高齢者支援	C／計画どおりの進捗
2-3 障害者支援	C／計画どおりの進捗
2-4 地域福祉・社会保障	C／計画どおりの進捗
2-5 保健・医療	C／計画どおりの進捗

【令和元年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ 高齢者支援、障害者支援、地域福祉・社会保障については、重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、今後力を入れて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、高齢者支援について、高齢者が移動しやすい交通機関の整備、高齢者を支える仕組づくり、認知症の方の家族も含めた見守りが求められている。また、障害者支援については就労支援の充実、地域福祉・社会保障については民生委員の確保等が求められている。
- ✓ 子育て支援・青少年育成、保健・医療については、重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、これまでの取組を継続的に展開すべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、子育て支援・青少年育成について、待機児童の解消や、虐待対策等が引き続き求められている。また、保健・医療については健康寿命の延伸等が求められている。

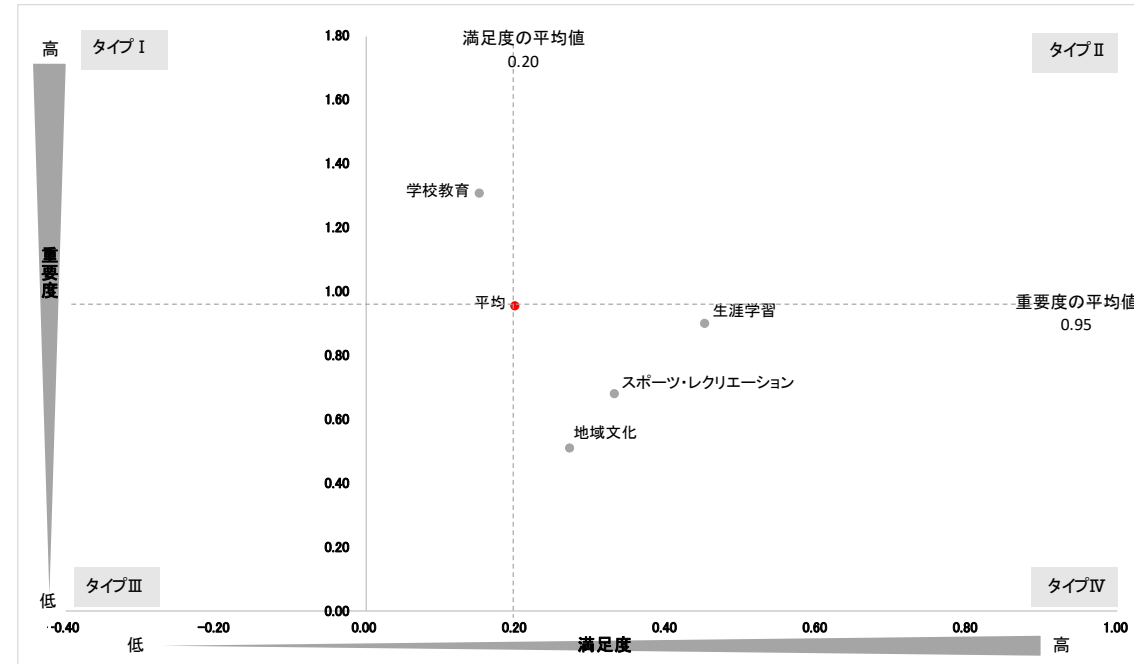
3 教育・文化

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）	総合判定
3－1 学校教育	B／計画を十分に上回る
3－2 生涯学習	C／計画どおりの進捗
3－3 スポーツ・レクリエーション	C／計画どおりの進捗
3－4 地域文化	C／計画どおりの進捗

【令和元年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ 学校教育については、重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、今後力を入れて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、「朝霞の次代を担う人材の育成」の具体的検討、教員のさらなる研修、学校運営協議会の全校設置等が求められている。
- ✓ 生涯学習、スポーツ・レクリエーション、地域文化については、満足度が高く、今後の重要度は低いことから、水準の維持は求められるが、市民からみた優先度は高くないと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、生涯学習について、生涯学習のデジタル化に際しての支援、図書館のデジタル化と公民館、図書館、博物館等の連携への期待等が述べられた。また、地域文化について、郷土芸能や行事等について市民が触れる機会づくりや、文化活動の活性化等が求められている。

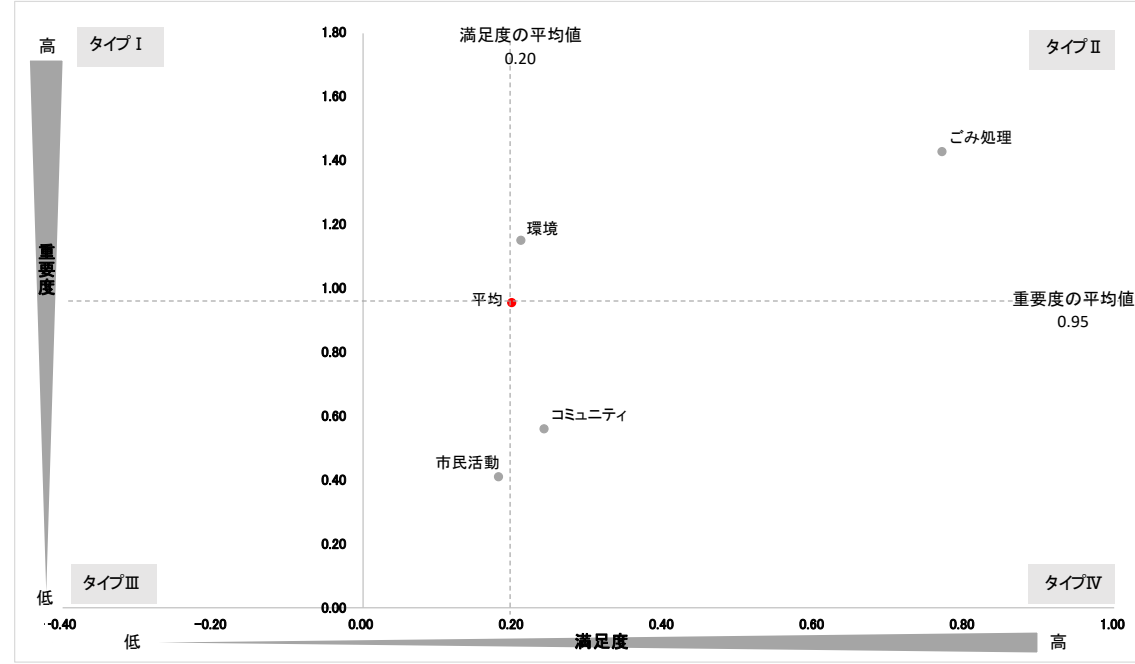
4 環境・コミュニティ

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）	総合判定
4－1 環境	C／計画どおりの進捗
4－2 ごみ処理	C／計画どおりの進捗
4－3 コミュニティ	C／計画どおりの進捗
4－4 市民活動	C／計画どおりの進捗

【令和元年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

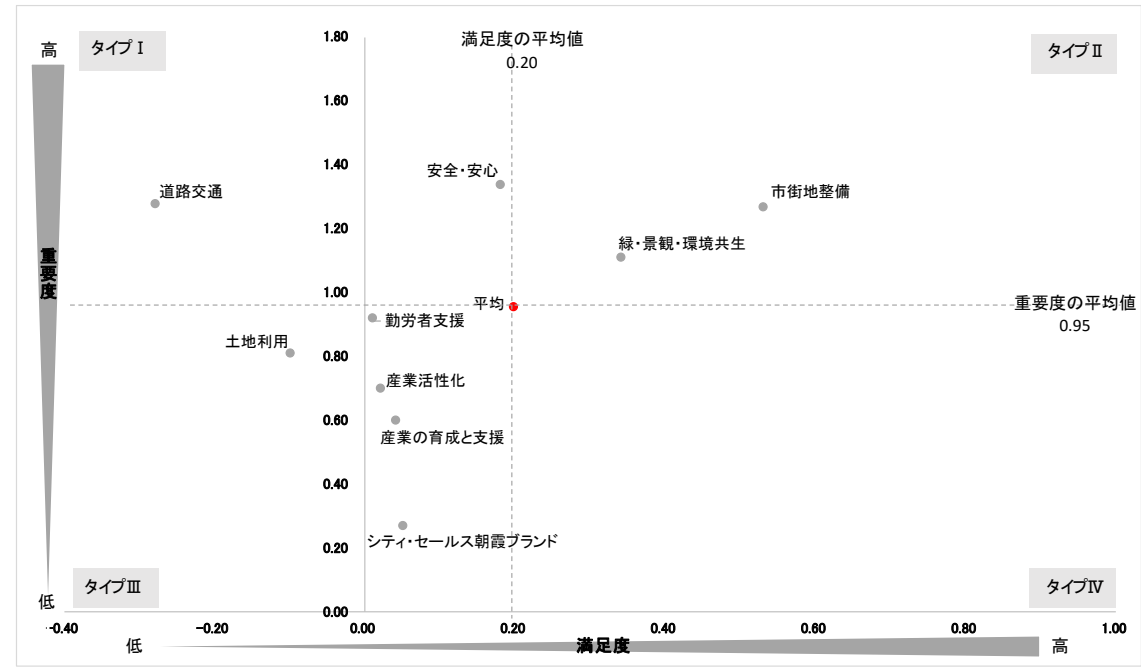
- ✓ 環境、ごみ処理については、重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、これまでの取組を継続的に展開すべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、環境について、成果指標の見直しや、低炭素を超え脱炭素を目指すよう求められている。また、ごみ処理については、ごみの減量化に向けた市民への環境教育が求められている。
- ✓ 市民活動については、満足度が低いですが、今後の重要度も低いことから、状況に応じて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、市独自の補助金、支援金、給付金などについて、さらなるPRが求められている。
- ✓ コミュニティについては、満足度が高く、今後の重要度は低いことから、水準の維持は求められるが、市民からみた優先度は高くないと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、加入したくなるような自治会・町内会づくり、NPOとの連携、市と市民による協働の課題解決が求められている。

5 都市基盤・産業振興

①分野の総括
【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）		総合判定
5－1	土地利用	C／計画どおりの進捗
5－2	道路交通	B／計画を十分に上回る
5－3	緑・景観・環境共生	C／計画どおりの進捗
5－4	市街地整備	C／計画どおりの進捗
5－5	安全・安心	C／計画どおりの進捗
5－6	産業の育成と支援	C／計画どおりの進捗
5－7	産業活性化	C／計画どおりの進捗
5－8	勤労者支援	C／計画どおりの進捗
5－9	シティ・セールス朝霞ブランド	C／計画どおりの進捗

【令和元年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ 道路交通、安全・安心については、重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、今後力を入れて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、道路交通について、「人中心の道路」への期待のほか、県道朝霞蔵線の歩道整備や、朝霞台駅及び北朝霞駅の活用とエレベーター設置、公共交通空白地区の改善等が求められている。
- ✓ 緑・景観・環境共生、市街地整備については、今後の重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、これまでの取組を継続的に展開すべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、緑・景観・環境共生について、緑の確保と防災の観点からの公園整備や、湧水の管理と有効活用、協働による緑化の推進、景観づくりの戦略立案等が求められている。また、市街地整備については、水道事業戦略の周知、水道管の老朽化対策の周知が求められている。
- ✓ 土地利用、産業の育成と支援、産業活性化、勤労者支援、シティ・セールス朝霞ブランドについては、満足度が低いが、今後の重要度も低いことから、状況に応じて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、土地利用について、都市計画道路の整備促進や貴重な緑の保全と市民生活向上のための有効活用が求められている。また、産業の育成と支援については、事業者・金融機関・地域の連携や、起業家・中小企業への支援が求められている。さらに、産業活性化について

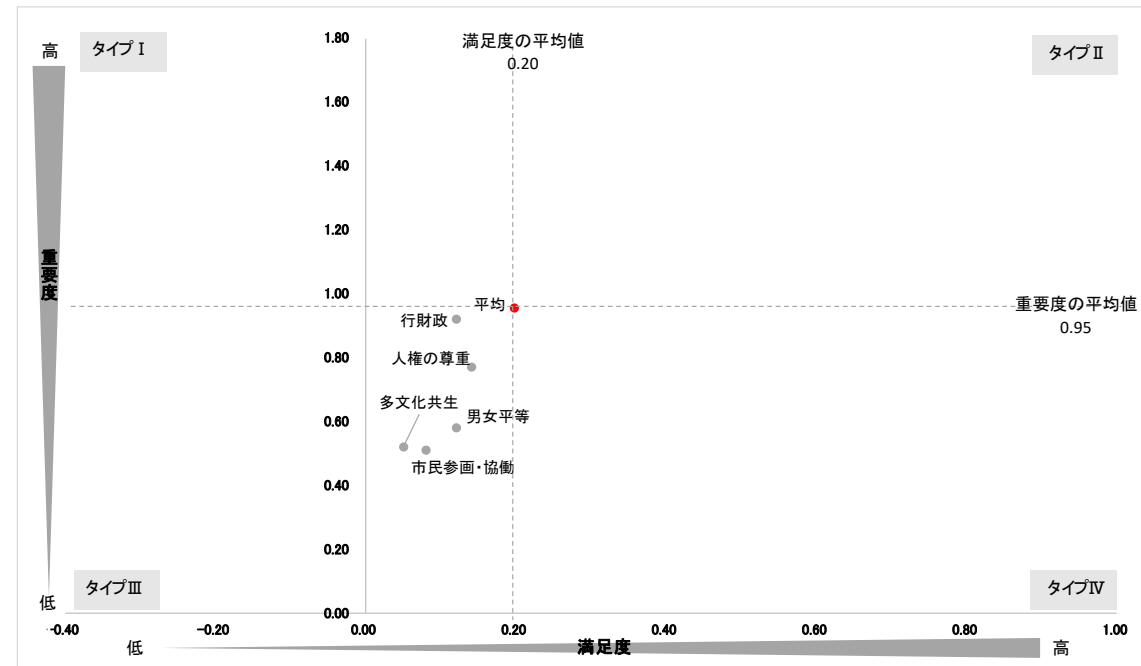
は、産業振興の計画は積極的な姿勢で進めるべきこと、北朝霞駅周辺の商店街の支援、地域社会を作り上げるという観点からの産業振興が求められている。シティ・セールス朝霞ブランドについては、「むさしのフロントあさか」というコンセプトの積極的利用が求められている。

6 基本構想を推進するために

①分野の総括
【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）		総合判定
6－1	男女平等	C／計画どおりの進捗
6－2	人権の尊重	C／計画どおりの進捗
6－3	多文化共生	C／計画どおりの進捗
6－4	市民参画・協働	D／計画を下回る
6－5	行財政	C／計画どおりの進捗

【令和元年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ いずれの施策も、満足度が低いが、今後の重要度も低いことから、状況に応じて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、多文化共生について、ごみの分別方法などの外国人市民への分かりやすい情報提供等が求められている。また、市民参画・協働については、住民同士の付き合いが希薄になる中での行政のあり方の検討、受け手の立場に立った情報発信、高齢者のデジタル対応支援等が求められている。さらに、行財政については、市民の定住促進、コスト意識と経営感覚、デジタル化、職員の人材育成が求められている。

Ⅲ 第5次総合計画後期基本計画の総括評価

○第5次総合計画後期基本計画の政策分野ごとに、施策（大柱）の評価概要、市民意識調査から見た施策の重要度・満足度、分野における総括と課題を次のとおり整理する。

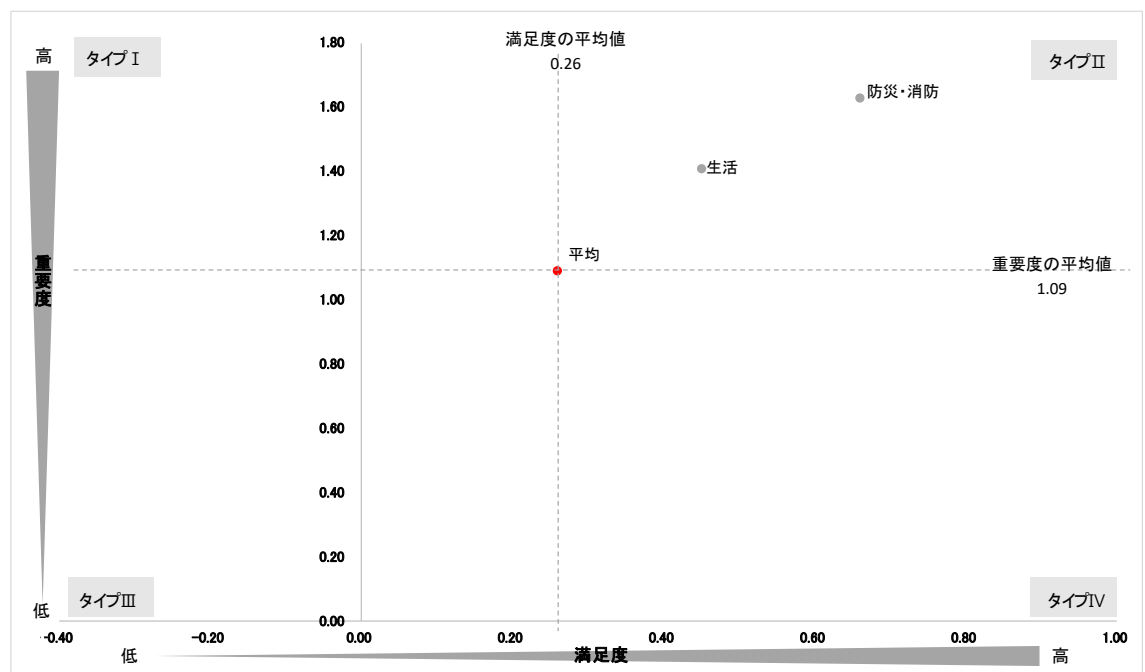
1 災害対策・防犯・市民生活

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）	総合判定
1－1 防災・消防	B／おおむね順調
1－2 生活	B／おおむね順調

【令和5年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ 防災・消防、生活とも、重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、これまでの取組を継続的に展開すべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、防災・消防について、地域で守るという基本的な考え方は、次期計画を立てる上でも強調されるべき、自治会・町内会の組織化や消防団の活性化に注力すべきといったことが求められている。

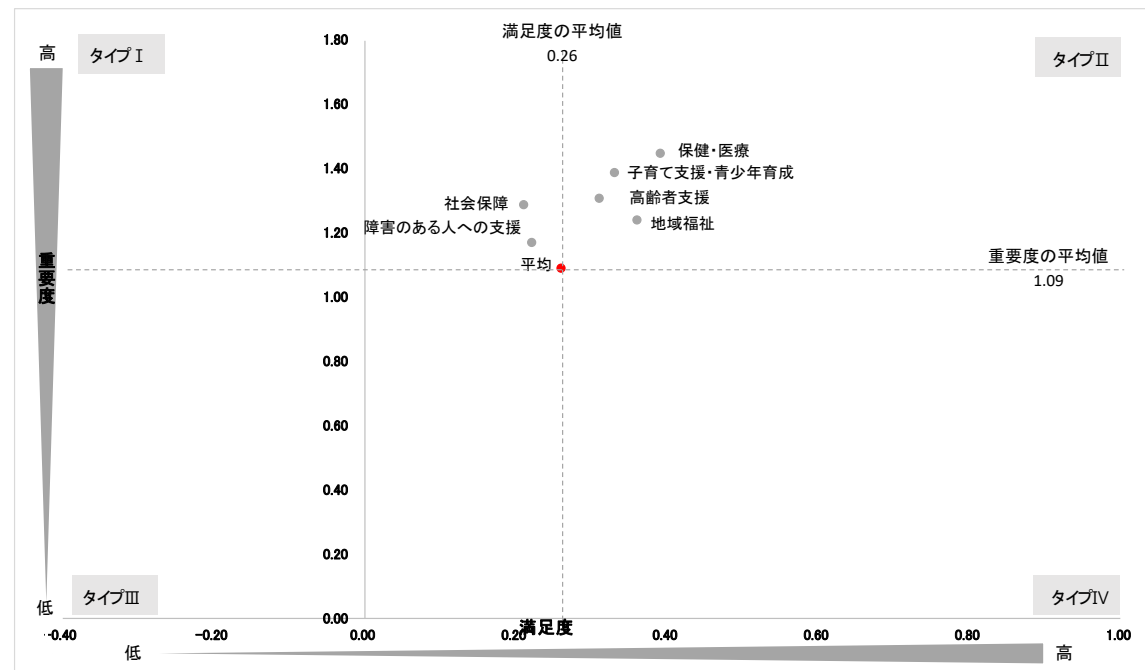
2 健康・福祉

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）	総合判定
2－1 地域福祉	B／おおむね順調
2－2 子育て支援・青少年育成	B／おおむね順調
2－3 高齢者支援	B／おおむね順調
2－4 障害者支援	B／おおむね順調
2－5 保健・医療	B／おおむね順調
2－6 社会保障	B／おおむね順調

【令和5年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ 社会保障、障害者支援については、重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、今後力を入れて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 保健・医療、子育て支援・青少年育成、高齢者支援、地域福祉については、重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、これまでの取組を継続的に展開すべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、地域福祉について、担い手の確保・育成が求められている。また、子育て支援・青少年育成については青少年を守り育成する家の成果等検証、高齢者支援については生きがい及び健康づくりに繋げる市民団体の活動活性化等が求められている。
- ✓ 令和元年度市民意識調査結果と比較すると、高齢者支援、地域福祉に対する満足度が上昇している。

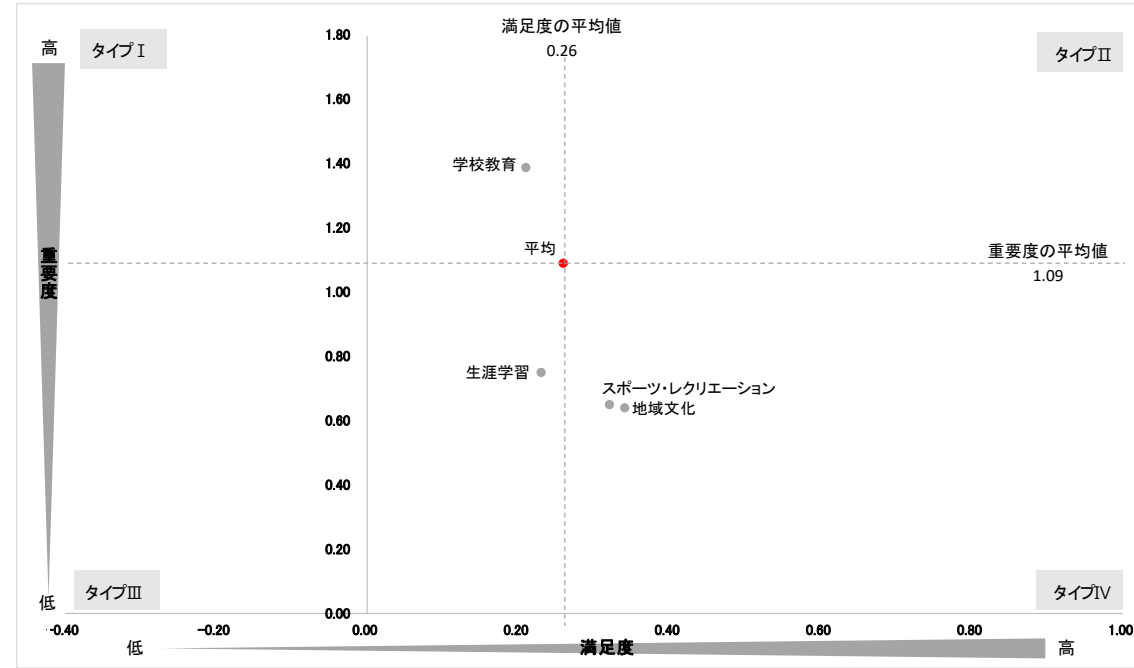
3 教育・文化

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）	総合判定
3－1 学校教育	B／おおむね順調
3－2 生涯学習	B／おおむね順調
3－3 スポーツ・レクリエーション	B／おおむね順調
3－4 地域文化	B／おおむね順調

【令和5年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ 学校教育については、重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、今後力を入れて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、教育分野で強みを育てる、自己肯定感等を育む、個に応じた指導方法、教職員の働き方改革が求められている。
- ✓ 生涯学習については、現在の満足度が低い、今後の重要度も低いことから、状況に応じて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、生涯学習は、時代が大きく変わる中で次の計画の中ではかなり重要な柱となってくるであろうこと、学びの成果を活用する仕組みづくりが重要であるとの意見があった。
- ✓ スポーツ・レクリエーション、地域文化については、満足度が高く、今後の重要度は低いことから、水準の維持は求められるが、市民からみた優先度は高くないと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、地域文化について、指標の妥当性の検証や、地域間交流の促進、小中学校と芸術文化団体との交流促進等が求められている。
- ✓ 令和元年度市民意識調査結果と比較すると、生涯学習に対する満足度が低下している。

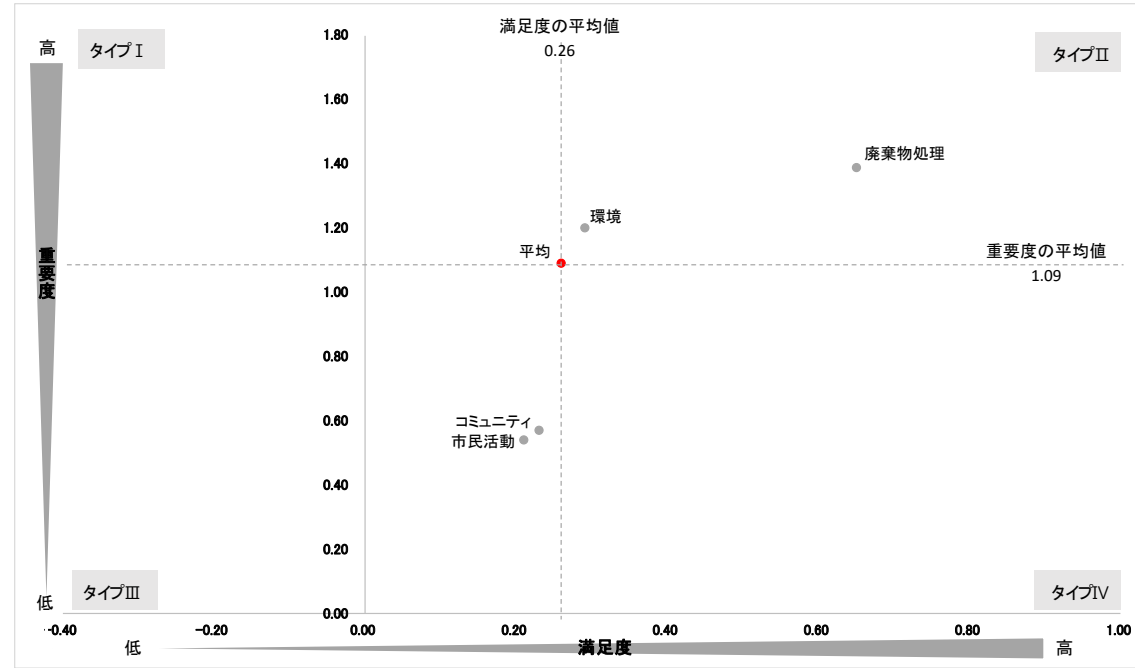
4 環境・コミュニティ

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）	総合判定
4－1 環境	B／おおむね順調
4－2 ごみ処理	B／おおむね順調
4－3 コミュニティ	B／おおむね順調
4－4 市民活動	B／おおむね順調

【令和5年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ 環境、廃棄物処理については、重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、これまでの取組を継続的に展開すべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、環境について、自然環境の維持保全、動植物の共生について公平な立場から取り組むべきこと、気候変動等の状況の注視と対応、気候変動対策についての周知に関する意見があった。
- ✓ 市民活動、コミュニティについては、満足度が低い、今後の重要度も低いことから、状況に応じて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、町内会・自治会に加入しない方の意見を汲み取りつつ問題解決に繋げるべきことや、住民意識の啓発が求められている。
- ✓ 令和元年度市民意識調査結果と比較すると、コミュニティに対する満足度が低下している。

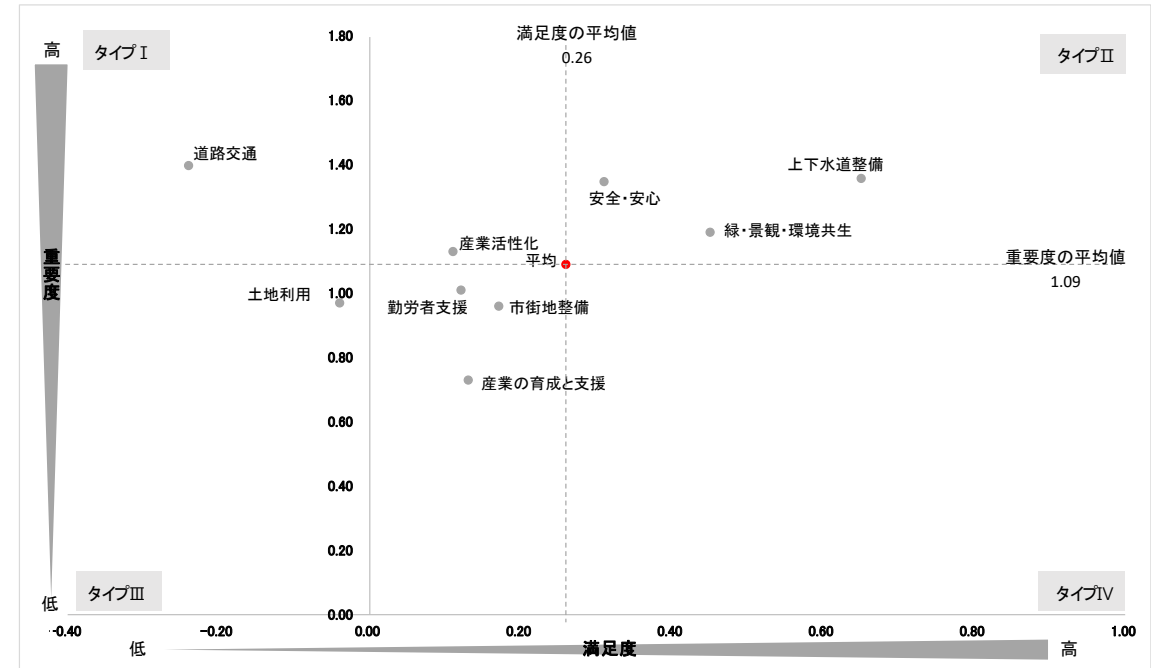
5 都市基盤・産業振興

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）		総合判定
5－1	土地利用	B／おおむね順調
5－2	道路交通	B／おおむね順調
5－3	緑・景観・環境共生	B／おおむね順調
5－4	市街地整備	B／おおむね順調
5－5	上下水道整備	B／おおむね順調
5－6	安全・安心	B／おおむね順調
5－7	産業活性化	B／おおむね順調
5－8	産業の育成と支援	B／おおむね順調
5－9	勤労者支援	B／おおむね順調

【令和5年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



【分野における総括と課題】

- ✓ 道路交通、産業活性化については、重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、今後力を入れて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、産業活性化につき、地産地消の促進や、J A等との連携により産業としての朝霞市農業の振興を図るよう求められている。
- ✓ 安全・安心、上下水道整備、緑・景観・環境共生については、今後の重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、これまでの取組を継続的に展開すべきと考えられる。
- ✓ 土地利用、勤労者支援、市街地整備、産業の育成と支援については、現在の満足度が低いが、今後の重要度も低いことから、状況に応じて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 令和元年度市民意識調査結果と比較すると、安全・安心に対する満足度が上昇している。また、産業活性化に対する重要度と、市街地整備に対する重要度・満足度がともに低下している。

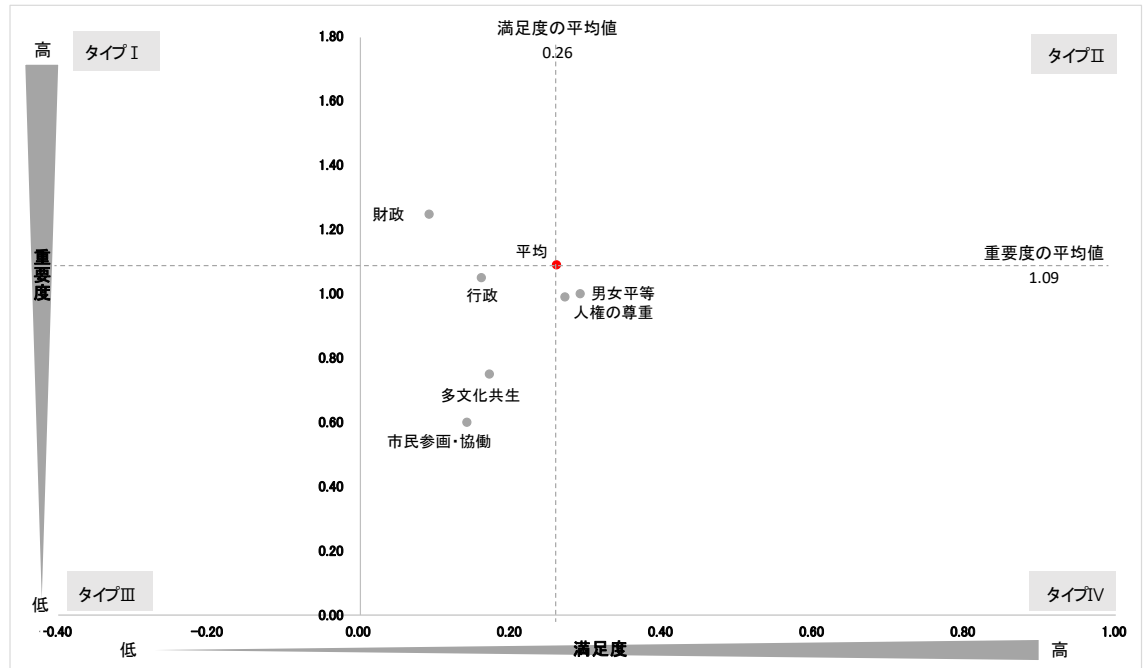
6 基本構想を推進するために

①分野の総括

【分野における施策（大柱）の評価概要】

施策（大柱）		総合判定
6－1	人権の尊重	B／おおむね順調
6－2	男女平等	B／おおむね順調
6－3	多文化共生	B／おおむね順調
6－4	市民参画・協働	B／おおむね順調
6－5	行財政	B／おおむね順調

【令和5年度市民意識調査から見た施策の重要度・満足度】



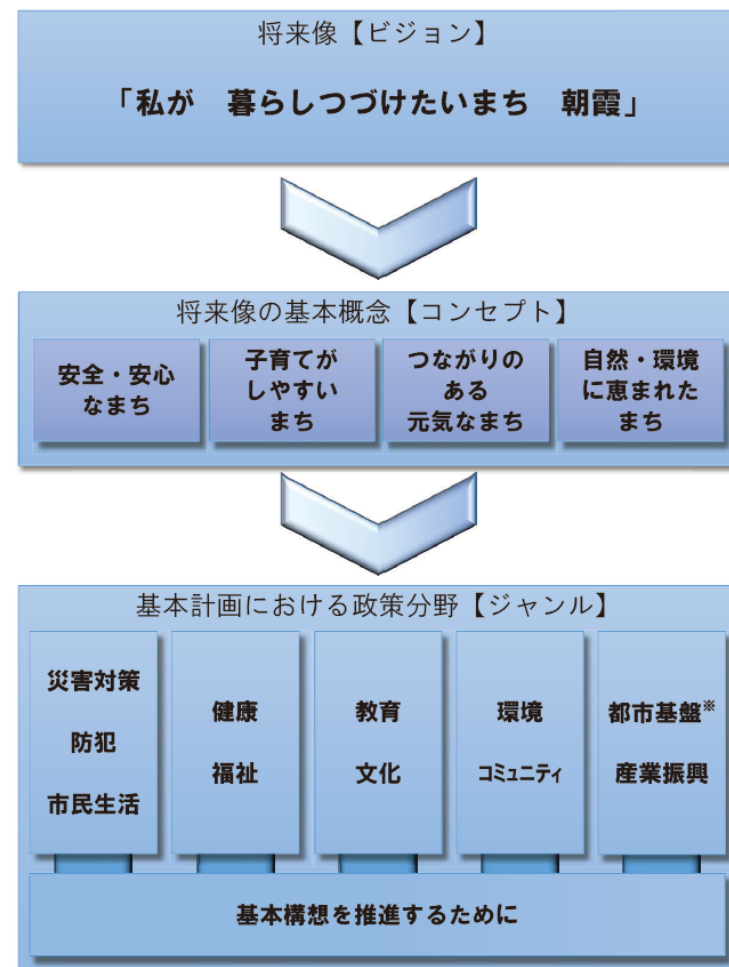
【分野における総括と課題】

- ✓ 行財政のうち財政については、重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、今後力を入れて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、行財政における取組の市民への周知について工夫すべきこと、人口減少と財政縮小に備え事業の選択と集中をさらに加速させるべきことについて意見があった。
- ✓ 行財政のうち行政、多文化共生、市民参画・協働については、現在の満足度が低いが、今後の重要度も低いことから、状況に応じて取り組むべきと考えられる。
- ✓ 男女平等、人権の尊重については、現在の満足度が高く、今後の重要度は低いことから、水準の維持は求められるが、市民から見た優先度は高くないと考えられる。
- ✓ 外部評価委員会からは、人権の尊重につき、学校における人権教育のほか、成人市民に対する人権教育を推進するよう求められている。
- ✓ 令和元年度市民意識調査結果と比較すると、行財政のうち財政に対する重要度が上昇している。また、男女平等、人権の尊重に対する満足度が上昇している。

IV 第5次総合計画の総括から想定される課題

○第5次総合計画基本構想「将来像の基本概念（コンセプト）」に位置付けられた「政策づくりに当たって重視すべき事項」に係る課題等を、次のとおり整理する。

【第5次総合計画基本構想 基本構想の構成図】



出典：第5次朝霞市総合計画_第2部基本構想32ページ

(1) 安全・安心なまち

①人にやさしいまちへ

- 道路整備基本計画に基づき効率的に道路整備を進めるほか、事業認可を取得している都市計画道路を優先して整備を進めるとともに、国道254号バイパスの早期全線開通に向け、国や県に働きかけていく必要がある。
- 高齢者や障がいのある方など全ての方に配慮した施策の実施が課題であり、継続的な市営住宅の確保や建物のバリアフリー化やユニバーサルデザイン化を推進する必要がある。

②支え合う心で安全・安心なまちへ

- 防災機能を向上させるため、狭あい道路の拡幅やオープンスペースを確保する必要がある。
- 朝霞市雨水管理総合計画で位置づけた浸水被害軽減対策を進める必要がある。
- 上下水道をはじめ、公共施設の計画的な耐震化・老朽化対策を進める必要がある。
- 地域防災計画等の随時見直しや啓発を進め、市民の生命、身体及び財産を保護するなど、災害に強いまちづくりを推進していく必要がある。
- 地域防災力の強化のため、自主防災組織をはじめとした自助共助の意識啓発を推進するほか、防犯推進計画の更新や啓発を通じた地域の防犯対策を推進する必要がある。
- 地域防災の要である消防団の運営を円滑にするほか、災害発生時における各種応急復旧に関する人的・物的支援を受けるため、民間事業者等との連携を進める必要がある。
- 地域共生社会の実現に向けて、包括的な支援体制を構築していくほか、多様な性や子どもの人権など、様々な人権課題に対応していく必要がある。
- 福祉ニーズの複雑化・複合化が進んでいるため、関連部署・機関との連携強化を図り、包括的に受け止められる相談体制を検討していく必要がある。

(2) 子育てがしやすいまち

①子育てしやすいまちへ

- こども家庭センターの設置など、母子保健機能と児童福祉機能のさらなる連携を図り、切れ目のない支援を実施していく必要がある。

②子どもたちがいきいきと育つまちへ

- 子どもの豊かな心と健やかな体を育成するため、主体的・対話的で深い学びを推進するほか、ICTなどの学びの環境を充実する必要がある。
- 教職員研修の強化による教職員の資質向上を図るほか、持続可能な開発のための教育（ESD）や消費者教育などを推進する必要がある。
- 関係機関と連携して教育相談活動を充実することで、子どもの個性と人権を尊重した教育を推進する必要がある。
- 特別支援学級を通じて、障害のある子どももいない子どもも、ともに学べるよう、一人ひとりの障害等に応じた教育の充実を図る必要がある。

(3) つながりのある元気なまち

①つながりのあるまちへ

- 自治会の加入率の低下や役員の負担軽減などの課題解決を進めるとともに、青少年の地域社会への帰属意識を醸成し、社会参加意識を高めていく必要がある。
- スポーツや芸術文化などの生涯学習に対する市民ニーズの把握に努め、公民館、図書館、博物館におけるサービスのあり方を検討する必要がある。
- 市民活動団体の設立・運営支援を継続するとともに、市民活動の拠点を提供し、市民活動の一層の活性化を図る必要がある。
- 行政情報の多言語化やピクトグラムの導入を推進するとともに、市内の多文化共生に取り組む団体と連携し、異なる文化の相互理解の促進を図る必要がある。
- 地域公共交通計画に基づき市内の面的な公共交通ネットワークの構築を目指すほか、まちづくりと一体となった持続可能な交通体系の構築について検討する必要がある。

②元気なまちへ

- 高齢者の社会参加の活動を通して、生きがいづくりや健康づくりを進め、元気な高齢者を増やしていく必要がある。
- 在宅サービス基盤の充実や見守りに関するサービス体制の充実など、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるため、福祉サービスの質を向上する必要がある。
- 健診や相談などの支援体制の充実に取り組んでいくほか、市民、事業者、行政等と協働して健康づくりの取組を推進していく必要がある。
- 商店会組織の高齢化や担い手不足の解消を図るほか、空き店舗を解消し、商店街のにぎわいを創出することで、商業振興や商店街の活性化を図る必要がある。
- 市内事業者の後継者や若手経営者を育成するほか、経営相談やセーフティーネット保証制度等を通して起業家や中小企業の支援を継続する必要がある。
- 企業誘致をすることは雇用機会の創出につながるが、企業が立地可能な大規模な市有地がないことが課題であるため、民有地に対して企業の立地につながるような施策が必要である。

(4) 自然・環境に恵まれたまち

①自然・環境がいきるまちへ

- 黒目川をはじめとした河川沿いの緑や水辺など豊かな自然環境、優良な農地をできる限り保全していくとともに、地域の状況に応じた適切な土地利用を行う必要がある。
- 市民等と協働で緑地等を適正に管理・保全するほか、新たな公園の整備について市民と協働で進め、グリーンインフラを取り入れた魅力ある公園づくりをする必要がある。
- 市民、事業者、行政が協働して地域の実情に沿った個性あるまちづくりを推進するほか、市民農園などを通して農業への理解を醸成し、優良な農地を保全するなど、美しい景観を保全・創出する必要がある。
- 市民や事業者と環境情報や環境問題を共有し、環境意識の向上を図るため、分かりやすい情報提供を行うほか、市民団体等への活動支援を継続する必要がある。
- 地球温暖化対策や循環型社会の形成には、市民、事業者、行政がそれぞれの役割に応じて実践していくことが必要であり、行政が率先して役割を示していくとともに、各種媒体を有効活用し、効果的な啓発を行う必要がある。

②歴史や伝統がいきるまち、魅力ある文化を創造するまちへ

- 文化財の保護・管理を進めるとともに、文化財を市の特徴を示すプロモーションとして活用し、地域の歴史や伝統文化の継承・保護につなげていく必要がある。
- 伝統文化や地域芸能を次世代へ伝承し、また、後継者の育成を図るとともに、伝統・芸術文化を伝え、体験する機会の充実を図り、朝霞市独自の文化の継承・創出・育成を推進する必要がある。
- まちの活性化を図るため、市民と市の協力による市民まつりなど、地域イベントを市の魅力として発信していく必要がある。

(5) 市民参画・行財政（コンセプト外）

①市民参画・協働

- 公募委員候補者登録制度や審議会等のほか、様々な場面で市民の市政に関わる機会を増やすとともに、若年層へのアプローチを検討する必要がある。
- 職員の協働に関する意識啓発を進めるとともに、地域の課題解決に取り組む市民活動団体等の育成や支援を行い、協働事業を展開していく必要がある。
- SNS等を活用し、市民が必要とする多くの情報を提供するとともに、「市への意見・要望」や「市政モニター」などを通じ、市民の市政参加に関する意識の高揚を図る必要がある。

②行財政

- 市税の未納額及び滞納者数は年々減少しているが、自主財源の根幹をなす市税については今後も堅実な収納が求められていることから、さらなる収納率の向上に向け取り組んでいく必要がある。
- 市税収入の他、様々な歳入の可能性を検討するとともに、国・県等の補助金の動向の把握に努め、十分な活用を図る必要がある。
- 今後、多くの公共施設等が更新の時期を迎えることから、計画的な保全及び更新が必要となるため、公共施設マネジメント基金の運用状況や市全体の財政状況と整合性を図り、施設の維持・管理等を進めていく必要がある。
- 社会情勢の変化や労働人口の減少などにより、さらなる効率的な行政事務の執行が求められる中、業務の見直しや簡素化を進めていく必要がある。
- デジタル技術を活用することで業務の効率化を図るとともに、市民の利便性向上につながるよう、既存の仕組みや考え方にとらわれない新たな視点で行政情報のデジタル化に取り組んでいく必要がある。
- 多様化する行政需要へ対応できるよう、柔軟な組織体制を構築する必要がある。また、多様化・複雑化する業務や様々な課題解決に対応できるよう、引き続き、職員の育成に努める必要がある。
- 市政やイベント等に関する情報、市の魅力発信について、ホームページや広報、SNS等を活用し発信しているが、アンケート調査などでさらなる周知を求める声があり、各情報の対象者に応じたツールの活用や周知方法を工夫し、情報発信を行う必要がある。